



日本語教員養成課程

○沿革と概要

桃山学院大学の日本語教員養成課程は、1989年の文学部設置時から始まり、30年以上の歴史があります。資格取得者は、すでに664名です！(2025年9月現在) 資格を取得した卒業生の中には、日本国内の大学や日本語学校で教える人、また中国や韓国、アイスランド、イタリアなど世界の教育機関で日本語教育に携わっている人がいます。

○受講資格・定員

本学の日本語教員養成課程は、国際教養学部、経済学部、経営学部、社会学部、法学部に在籍する学生が履修できます。

○課程修了要件

日本語教員養成課程を修了するには、必修科目(22単位)、選択必修科目(8単位)、自由選択科目(2単位)、計32単位を修得し、卒業することが要件です。必修科目は以下の通りです。

- ・「日本語教育事情」日本語教育の前提となる部分を学びます
- ・「年少者日本語教育」外国につながるのあの子どもの教育に焦点を当てます
- ・「異文化間コミュニケーション論」
- ・「語彙・意味論」「文字・表記論」日本語という言語についての理解を目指します
- ・「日本語教授法の基礎 A・B」日本語を外国語として教えることを初級文法を通して学び

- ます
- ・「日本語教材・教具論 A・B」教材分析や教材開発などについて学びます
- ・「日本語教授法演習」教案の書き方、模擬授業、そして教壇実習を行います

これらの必修科目は、言語、社会、文化、心理、教育と幅広い領域をカバーしており、日本語教員になる上で必要な知識、技能、態度を身につけることができます。

○課程授業の一例

2025年度の「日本語教授法演習」では、教育実習に先立ち、複数の日本語学校で授業見学をしたり、日本語学校で働く日本語教員の方々との座談会を行ったりしました。また、学生たちがすごろくゲームなどを考え、日本語学校の学生さんとの交流会を企画・実施しました。

日本語教員と聞くと、日本語を教えることが仕事!ということがぱっと思いつくかと思いますが、教える前に日本語教員と日本語を学ぶ学習者の間に、人と人の関係を築く必要があります。こうした交流会などで教える一教えられるという固定的な関係ではなく、対等な人間関係を築く経験を積み重ねていき、日本語を学ぶ人々を社会的存在として捉える視点を養うことを目指しています！

○教壇実習

桃山学院大学では、日本国内外で教壇実習を行っています。

【国内】

桃山学院大学の交換留学生を対象に教壇実習を行います。学内の交換留学生を対象とすることで、教壇実習外でも交流を深めること

ができ、留学生の日常生活や日本語学習についてより深く知ることができます。

なお、2025年度からは学外の日本語学校等の教育機関でも教壇実習を行います。

【海外】

①長期

オーストラリアのウィーン大学、ポーランドのヤギェウォ大学、チェコのマサリク大学、ドイツのハンブルク大学、台湾の輔仁大学、計5か国の5大学で、1学期から2学期の長期の教育実習ができます。

②短期

台湾の輔仁大学と致理科技大学、タイのチェンマイ大学、計2か国の3大学で、3週間程度の教育実習ができます。



台湾での教壇実習の様子



実習先の学生さんたちとの交流の様子

海外での日本語教育実習は多様な選択肢が準備されています。また、日本語を教えることを学ぶという点にとどまらず、自分自身が異なる文化に身を置いて生活する経験を積むことができることから、日本で学ぶ留学生の思いや

経験を理解する貴重な機会となります。

○学習支援体制

日本語教員養成課程担当の教員と資格担当の事務職員が日々多方面でサポートをしています。また、2025年度は日本語学校の先生を本学にお招きして、現場の先生の声を聴いたり模擬授業を見学したりする機会を設けました。今後もさまざまなイベントを予定しています。

○課程修了と進路

桃山学院大学の日本語教員養成課程を修了し資格を取得した人たちは、さまざまな現場で活躍しています。

【国内】

日本語学校、小学校、大学、大学院 などなど！
※桃山学院大学に戻ってきて留学生の授業を担当している人もいます

【海外】

韓国の大学、中国の日本語学校、台湾の大学、アイスランドの大学、イタリアの語学学校、インドネシアの国際機関 などなど！

○桃山学院大学について知るには

★桃山学院大学についてはこちら↓ ↓



★海外の日本教育実習についてはこちら↓ ↓



【お問い合わせ先】

担当教員：大河内・有川

MAIL:kawachih@andrew.ac.jp